

重要文化財長塀の保存修理

熊本城総合事務所 城戸秀一 江淵正一
熊本城調査研究センター 岩橋隆浩

今日のお話

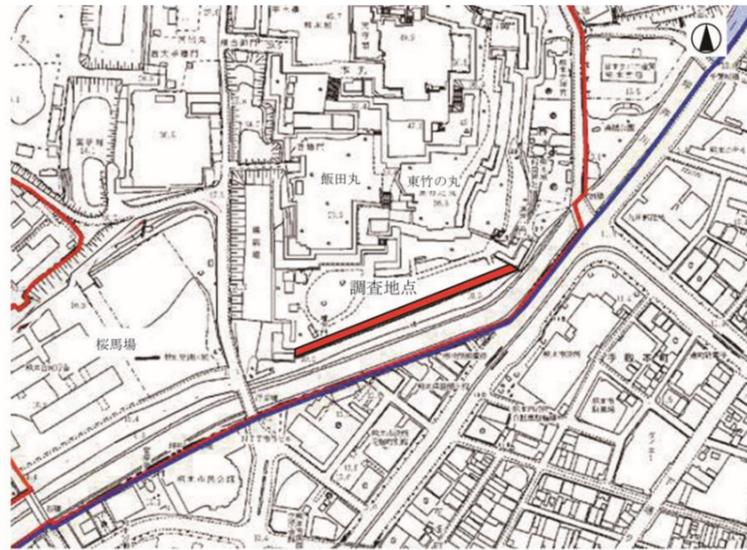
はじめに

1. 長塀とは？ - その立地と概要 -
2. 長塀の発掘調査
3. 長塀の保存修理工事 - その概要とこれまでの工事 -
4. 今後の工事予定

おわりに

1. 長塀とは？ - その立地と概要 -

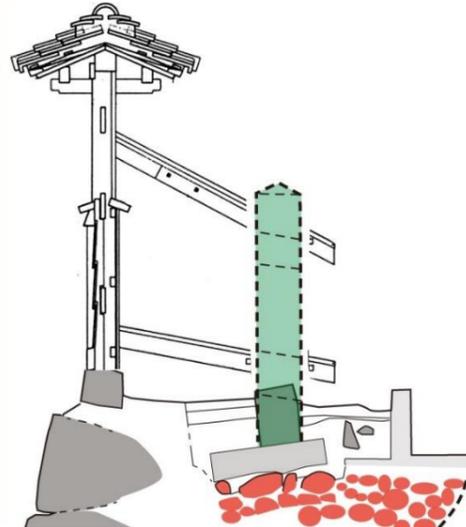
①どこにあるのでしょうか



調査地点(赤塗り)位置図
(赤線: 特別史跡範囲 青線: 埋蔵文化財包蔵地範囲)

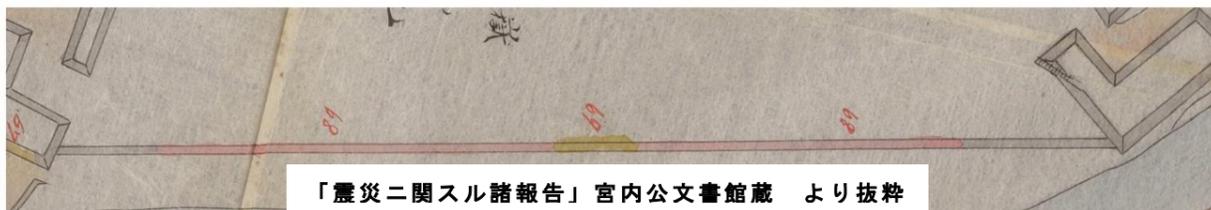
②どのような建物？

全長約 243mの長大な塀
昭和 8 年旧国宝指定

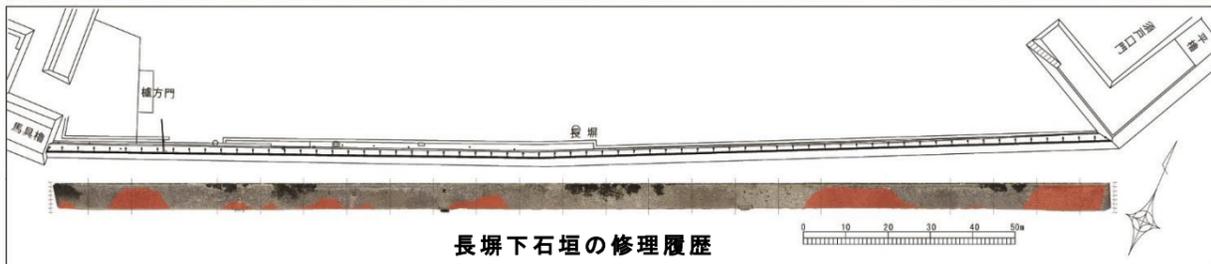


③竹の丸とはどのような郭なのでしょう

- ・熊本城の南東端⇒白川付け替え後に整備された郭（慶長 15 年(1610)頃か）
- ・長塀は江戸期の絵図にも登場
- ・郭の東半には「川手鉄砲蔵」「作事所預蔵」「作事所」「材木蔵」
- ・郭の西半に無銘の蔵状の建物 中央は元札櫓門から東竹の丸への通路か
- ・明治以降昭和 34 年までは旧陸軍の施設があった⇒弾薬庫とその関連施設



「震災ニ関スル諸報告」宮内公文書館蔵 より抜粋



長塀下石垣の修理履歴

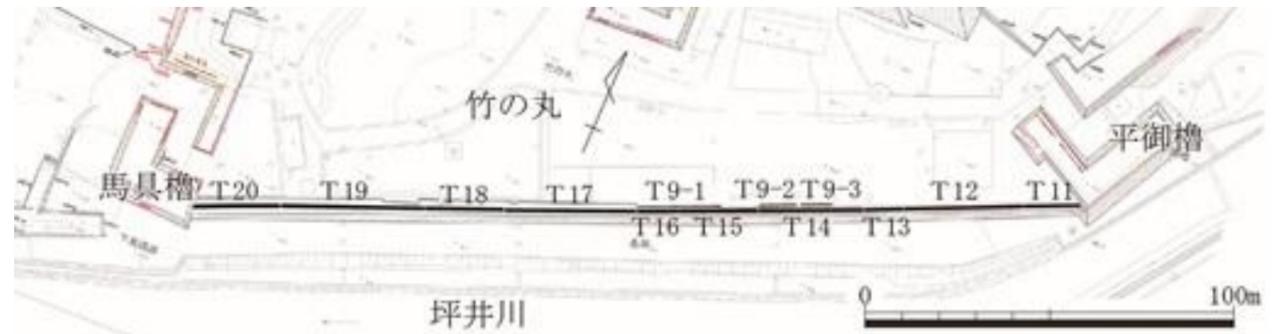
2. 長塀の発掘調査

①発掘調査前の調査

- ・長塀前面石垣の修理履歴調査
 - 明治 22 年熊本地震で被害があった⇒左中図を参照
 - その後に石垣を修理している⇒修理した部分は？⇒石垣の表面観察
 - 石垣の解体積直し⇒裏込層も含めて解体される⇒何を意味するのか？
 - ⇒石垣に近い箇所にはそれ以前の遺構は残っていない
 - ・遺構内容確認調査
 - 8ヶ所にトレンチを設定して調査を実施
 - ⇒江戸時代の遺構の残存状況・控柱の修理の状況を確認するための調査
- 調査の結果
- 江戸時代の造成土が残っている部分があることを確認
 - 江戸時代の遺構を傷つけることなく控柱をどのように補強するか⇒設計の検討

②なぜ発掘調査をしたのか？

- ・控柱をコンクリート基礎で連結する補強をすることになった
- ・補強する基礎を施工する際に地面の掘削が行われる
- ⇒補強基礎で掘削をする範囲で発掘調査を実施した
- ・その他付帯工事などによる掘削
- 一部は発掘調査しその他は随時工事立会をした



③発掘調査などの結果

- ・明治時代初めの遺構が残っている部分があることがわかった
- ・江戸時代の長塀の痕跡
 - 江戸期の瓦片が固く締まった土の上に散乱していた
 - その上からスナイドル銃の葉莖などが出土した
- ・今は使われていない控柱が残っていた



散乱する江戸期の長塀の瓦片



今は使われていない控柱(手前)

- ・長塀を維持するために行われた修理の内容を確認した
 これまでの修理
 昭和2年 28年～30年 34年 47年 52年 平成3年～4年 8年
 いかにして控柱を強くするかに腐心した歴史⇒さまざまな控柱の補強方法



昭和28～30年補強基礎 昭和52年補強基礎 平成3～4年差し替え控柱

- ・煉瓦建物の一部を確認した
 旧陸軍施設撤去前の建物配置図に描かれている



煉瓦建物の壁面

- ・棧瓦が大量に出土した
 大きく分けると2種類ある
 そのうちの1種類には「筑後 柳川」の刻印がある
 熊本城内で江戸時代の棧瓦は出土しない
 と言うことは近代の瓦⇒旧陸軍施設の瓦か？
 柳川(旧三橋町)の瓦生産
 ここで生産される瓦は「鎮台瓦」とも呼ばれていた
 ⇒第6師団関連建物使用瓦の7割以上を占めていたと言われている
 一般向けの瓦は有明海沿岸に舟運を仲介として流通していたとされる



※上段の瓦と下段の瓦は文様が違う
 ※下段の瓦には刻印がある

3. 長塀の保存修理工事 –その概要とこれまでの工事–

- ①工事の手順
 ①現状の調査⇒②解体・部材の調査
 ⇒③復旧工事(部材の修繕・新補材の作成⇒組み立て)⇒④竣工

- ①現状の調査
 調査をすることで建物の傷み具合などを把握する
 ⇒長塀の場合は倒壊状況の調査を実施
- ②解体・部材の調査
 建造物の部材(部品)を一つ一つ丁寧に外して解体してゆく
 ⇒家屋の解体のようにバリバリと壊すような解体ではない
 元の状態に戻せる解体⇒建物を構成する部品の一つ一つが文化財
 塀のような簡単な建造物でも部材の数は多い
 解体と並行して調査を行う
 ⇒材質・加工の方法・作られた年代・これまでの修理履歴などなど
 解体した部材は格納庫に仮収納する
- ③復旧工事
 部材の修繕・新補材の作成
 できるだけ古材を使って建物は元に戻す
 ⇒使える部材はそのまま使うが、部分的に修繕することで使える部材は修繕する
 交換が必要な部材
 ⇒新しく部材を作り直す
 組み立て
 元の状態に組み立てる



被災後の状況 解体の状況(倒壊部分) 解体の状況(非倒壊部分)



部材の繕い 控柱の補修 組立工事

4. 今後の工事予定

- ◎令和2年度末の竣工を目指して組立工事を進めます

おわりに